



お客様情報



オタフクソース株式会社

● 所在地

〒733-8670

広島県広島市西区商工センター7丁目4-27

<http://www.otafuku.co.jp/>

オタフクソース株式会社の前身となる佐々木商店は、酒、しょうゆ類の卸小売業をメイン・ビジネスとして1922年に創業。1950年にはウスターソースの製造販売に着手し、1952年には同社のメイン商品となっている「お好みソース」を発売。以後、商品のバリエーションを増やしながら順調に成長を続け、人々の豊かな食生活をサポートしています。

オタフクソース株式会社

情報系システムをIBM SoftLayer環境に移行することで、ハードウェアの管理・運用の手間を削減するとともに、リソース不足の不安を解消

オタフクソース株式会社（以下、オタフクソース）は、情報系システムをクラウド化するためにIBM SoftLayer（以下、SoftLayer）を採用。移行作業が完了すれば、ハードウェアに関する管理・運用の手間の削減、リソース不足への不安解消といった効果が期待されています。その後は基幹系システムについてもクラウド化する予定で、ほぼすべてのシステムをクラウド化することで変化の著しいビジネス状況に迅速に対応できるIT環境が整備される見通しになっています。

市場環境の変化に対応できるビジネスを実現するためIT環境のクラウドへの移行を検討

1922年、オタフクソースの前身となる佐々木商店が創業。当初は酒、しょうゆ類の卸小売業を営んでいましたが、1938年には醸造酢の製造を開始しました。その後戦禍に見舞われゼロからの出直しを余儀なくされましたが、1950年にはウスターソースの製造販売に着手。1952年には同社のメイン商品となっている「お好みソース」を発売しました。以後、商品のバリエーションを増やしながら順調に成長を続け、人々の豊かな食生活をサポートしています。

お多福グループは、持ち株会社のオタフクホールディングス株式会社（以下、オタフクホールディングス）の傘下に、オタフクソース、お多福醸造株式会社、お好みフーズ株式会社（以下、お好みフーズ）、ユニオンソース株式会社で形成されています。また、オタフクソースの子会社として海外市場に向けた拠点となるOtafuku Foods, Inc.とお多福食品（青島）有限公司を設立し、このお多福グループの力を結集して国内および海外におけるビジネスを展開しています。

同グループのビジネス状況についてオタフクホールディングス 執行役員 経営企画部部长 岡本 侯子氏は以下のように説明します。

「グループの中で大きな売り上げを占めているのがオタフクソースになりますが、一般の流通向けに商品を販売する事業と、飲食店や惣菜バンダーなどのニーズに沿った商品の開発・製造・販売を行う事業の2種類の大きな柱があります。そしてオタフクソースのメイン商品といえばお好みソースであり、お好み焼にも強い思い入れがあります。その普及のために、お好み焼の歴史や文化を発信する施設であるWoodEggお好み焼館を2008年に設立しました。また、同館では一般のお客様のほか、開店を検討しておられる方向けのお好み焼教室も開催しています」

このようにお好み焼関連事業を主軸としているオタフクソースですが、国内の市場は縮小傾向にあり、ニーズやシーズに即した新商品を開発することが重要になってきています。「お客様のニーズは多様化してきていますので、その声に耳を傾けながら新商品を開発することが求められています。そこで商品開発機能を強化するために、2015年にオタフク R&Dセンター WillEggを設立しました。WillEggには研究部門、商品開発部門、マーケティング部門、購買部門およびお好み焼関連材料を開発するお好みフーズが集約され、それら商品開発関連部門が組織の枠を越えて一体となり、『知』を結集することで新しい価値を創造していくことを目指しています」（岡本氏）。



事例概要

【課題】

- 素早いビジネス展開をIT面から後押しするために、オンプレミスで管理していたシステムをクラウド化する必要があった。
- IBM Dominoが稼働するサーバーの保守期限が迫っていた。

【ソリューション】

- IBM SoftLayer 環境に情報系システムを移行し、イントラネットと接続することでオンプレミス環境の基幹システムと連携させる。

【メリット】

- 情報系システムのハードウェアに関する管理・運用の手間を削減。
- リソース不足にも迅速に対応可能。

Willeggではオフィスのフリー・アドレス化を図るとともに、各種打ち合わせスペースなどコミュニケーションを促すための空間が設置され、活発な情報交換や社員同士の連携を促進することが可能になっています。こうした取り組みは、変化を繰り返しながら多様化する市場のニーズに対応できるように、商品開発スピードを向上させることが目的の一つとなっています。そしてそのスピードの向上を実現するためには、IT環境の改善も必要となります。

「市場環境の変化に遅れなくビジネスを推進するためにはIT活用による効率化を欠かすことはできません。しかし、ITの運用・管理などをすべて自社で抱えていると、スピードや生産性の向上に向けたリソースの配分が十分に行えないこともあり、オンプレミスではなく、クラウドの活用が効果的だと考えていました。また技術の進化も早く、社内のIT部門でそのすべてに対応することは難しいので、可能な限り外部に委託し、社員が本当に考えなければならぬコア・ビジネスの部分に注力する方がいいと判断しました」（岡本氏）。

社内システムをよく理解している日本IBMの提案を選択

このように同社ではIT環境のクラウドへの移行を検討していましたが、実際にはそれを実行する機会になかなか恵まれませんでした。その状況についてオタフクホールディングス 経営企画部 IT企画課 課長 高野 秀弘氏は次のように説明します。

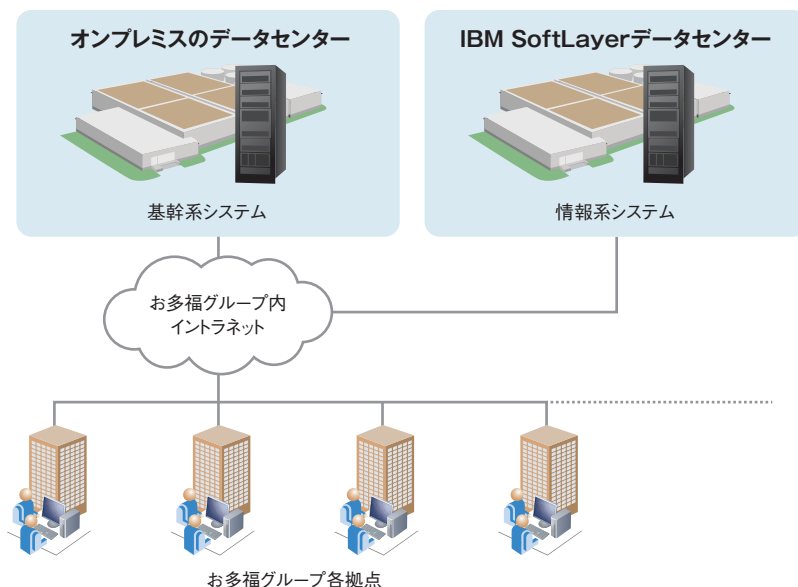
「世の中にクラウド・ファーストの考え方が浸透する中、弊社でも2～3年前からクラウド化については検討してきました。幾つかのデータセンターを見学していろいろとクラウドに関して調べたところ、セキュリティーについてはオンプレミス環境よりも強化されているということが分かるなど、クラウドを活用するメリットが明らかになってきました。しかし、問題はコスト面にありました。当時はクラウド化することでかえってコスト増となるケースがほとんどだったことから、導入に踏み切ることができませんでした」

同社の場合、年間を通じてIT環境活用頻度の波が少ないため、クラウド化によるコストメリットを引き出すことが難しかったのですが、IBM Domino（以下、Domino）の稼働基盤となっているハードウェアの保守期限が迫ってきたことから、それをきっかけとして具体的なクラウド化の検討が進み始めました。

「当初はSaaSで提供されるe-メール・サービスの採用を検討しましたが、e-メール機能以外の各種アプリケーション DBも必要だったため、e-メールだけをほかに移してもDominoも残すことになり、コストが二重化してしまうことが問題になりました。そこでIaaSのクラウド・サービスを利用してDomino環境を稼働させる方法に変更しました。そしてこれを契機にDominoのサーバーだけではなく、国内のグループ会社が利用するすべての情報系システムを移行することを前提にクラウド・サービスの選定を行いました」（高野氏）。

クラウドの選定に当たっては、将来的に基幹系システムの移行の候補としても検討できる3社に絞り込み、情報系システムのクラウドとして、最終的に日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、日本IBM）が提案したSoftLayerが選ばれました。その選定理由についてオタフクホールディングス 経営企画部 IT企画課

■ IBM SoftLayerを活用したお多福グループのシステム概要



“新しいビジネスを展開しようとしても、オンプレミスでシステムを抱えているとそれが制約になってしまうことがあります。クラウド化によってそうした制約を減らすことができれば、ビジネス展開にIT環境を素早く対応させていくことができるのではないかと期待しています。”



オタフクホールディングス株式会社
執行役員
経営企画部
部長

岡本 侯子 氏

“これまではトラブルが発生すれば夜間や土日などでも対処しなければならなかったのですが、クラウド化することでその負荷の軽減を見込んでいます。”



オタフクホールディングス株式会社
経営企画部
IT企画課
課長

高野 秀弘 氏

“今回初めて一定規模のシステムをクラウド環境へ移行するので多くの不安を抱えていましたが、弊社システムに通じている日本IBMがパートナーであれば安心してお願いできると判断しました。”



オタフクホールディングス株式会社
経営企画部
IT企画課
チーフスタッフ

岩井 基 氏

チーフスタッフ 岩井 基氏は次のように語ります。

「これまでアプリケーションなどの構築を依頼してきたこともあり、日本IBMには弊社システムをよく理解していただけています。今回初めて一定規模のシステムをクラウド環境へ移行するので多くの不安を抱えていましたが、弊社システムに通じている日本IBMがパートナーであれば安心してお願いできると判断しました。システムのアプリケーション層がよく分かっているので、必要十分なスペックのインフラを提案していただくことが可能になります」

オタフクソースでは仮想サーバーだけではなく、ベアメタル・サーバー（物理サーバー）も活用することになっていたため、その点もSoftLayerの評価ポイントになっています。

「仮想化ソフトウェアの関係でDominoについてはベアメタル・サーバーを使う必要がありました。近年はベアメタル・サーバーに対応するクラウド・サービスが増えてきましたが、SoftLayerは先駆けになるので、その実績から安心して活用できるという点がありました。また将来の基幹系システムのクラウド移行を見据えた場合、インフラとSAPの運用がパッケージ化されたIBM Cloud Managed Services for SAP Applicationsを活用できる点も評価しました」（岩井氏）。

SoftLayerの環境は2015年12月から立ち上げ、まずはそこでテスト行いました。

「通常オンプレミスでサーバーを導入する場合、テストもサーバーを購入後に行うこととなりますが、クラウドであれば時間単位でひとまず環境を借りて手軽にテストを行うことができるので非常に便利です」（岩井氏）。

ハードウェアに関する管理・運用の手間を削減し、リソース不足にも迅速に対応可能

現在はSoftLayer環境への移行作業を進めていますが、2016年3月末にはシステムの移行が完了する予定になっています。

「今回の移行作業は、サーバー20台程度の規模になりますが、それらのシステムを順次移行し、2016年3月末までにすべてを完了させることを目指しています。クラウドへの移行は初めての経験になるので、最初は日本IBMのサポートによって道筋を立てていただきました。そのおかげでその後は社内のスタッフで移行作業を進めることができるようになりました。移行に当たって大きなアプリケーションの改修は必要ないと思っていますが、クラウド環境に変わることによってレスポンスの低下が予想されるものについては、改善を施す予定です」（岩井氏）。

お多福グループでは、グループ各社間で高速イントラネット網を構築しているため、そのアクセス回線とSoftLayerのデータセンターを接続することで、オンプレミス環境との連携を可能にしました。

クラウド環境に移行することで、インフラについての管理・運用の手間が削減される成果が期待されます。

「今回IaaSを選択しましたので、アプリケーションについては今までと変わらずにメンテナンスしていく必要がありますが、ハードウェアについては手間が削減されます。これまではトラブルが発生すれば夜間や土日などでも対処しなければならなかったのですが、クラウド化することでその負荷の軽減を見込んでいます。これは精神的にもとても楽になると思います」（高野氏）。

また、リソース不足への対処が容易になることも安心につながっていると高野氏は言います。

「以前、基幹系システムをオンプレミスで導入した際、動かしてみたらリソースが不足していたという事態が発生したことがありました。急いでサーバーを増設したのですが、そのために数十日を要してしまいました。クラウドであれば、そうした場合でもすぐにリソースを拡張できるので、その点も安心の材料になります。新しいシステムを立ち上げる際も、

オンプレミスであれば5年後の稼働状況なども勘案してリソースを確保する必要がありますが、クラウドではその都度必要な分だけを活用すればいいので、無駄なリソースを最小限に抑えることができます」

基幹系システムもクラウド環境に移行することで、さらなるクラウド化のメリットを期待

情報系システムの移行が完了した後、次は基幹系システムについてもクラウド環境に移行することを視野に入れています。

「情報系システムに続いて基幹系システムについてもクラウド環境に移行することを目指していますが、これが完了すればオンプレミス環境に残るシステムはほぼなくなります。そうすれば、運用・管理の手間がさらに削減されるほか、サーバー・ルームの空調などのコスト削減が実現するでしょう」（高野氏）。

また岡本氏は、クラウド化したことの価値を長期的な視点で見通すことが重要だと言います。

「基幹系システムも含め、今後SoftLayerのランニング・コストがどの程度になるかを明確に予測できないので、今回クラウド化したことのコスト・メリットを現時点で見通すことはできません。しかし、今後クラウド上でシステムを運用していくことで、それぞれのアプリケーションの運用コストを把握できるようになると思います。そうすればシステムが提供するサービスの付加価値との兼ね合いで構成などの見直しを図ることができるのではと考えています。このように長期的な視点でシステムの全体像を検討していくことが重要だと思っています」

最後に岡本氏はシステムのクラウド化が同社のビジネス成長に与えると期待される影響について語ります。

「新しいビジネスを展開しようとしても、オンプレミスでシステムを抱えているとそれが制約になってしまうことがあります。クラウド化によってそうした制約を減らすことができれば、ビジネス展開にIT環境を素早く対応させていくことができるのではないかと期待しています」
オタフクソースは今後もさまざまなビジネス環境の改革を通じて、人々の豊かな生活をサポートする商品づくりを展開していくでしょう。

IBM SoftLayer についての詳細情報は下記の Web サイトをご覧ください。
ibm.com/cloud-computing/jp/ja/softlayer.html

WoodEgg お好み焼館についての詳細情報は下記の Web サイトをご覧ください。
<http://www.otafuku.co.jp/corporate/woodegg/>



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2016

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Printed in Japan

February 2016

All Rights Reserved

このカタログの情報は2016年2月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。
記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。
効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。
製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。
IBM、IBMロゴ、ibm.com および Domino は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。
他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。
現時点でのIBM商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。